



今号は医歯連携担当 病院長補佐に寄稿いただきました。

今なお野球に魅せられて

本年度、徳島大学病院病院長補佐を拝命いたしました小児歯科学分野の岩本勉です。今回、ここに原稿執筆の依頼をいただきましたが、内容が趣味や特技についての紹介を、とのことでした。無芸・無趣味の私にとって、この手の話題はいつも困ってしまいます。年を重ねるとこういう場面も少なくなく、いつもこの手の話題が始まると芸は身を助くという言葉が頭の中をこだまします。ということで誇れるものは何もないのですが、こういった時には決まって、野球をすること、観戦することです、と、一息吸った後に自動応答している自分がいます。実際は、大学の部活と地元の草野球で野球をやった以降、20年以上まともにやっていないので、本当の趣味とは言いがたいのですが、しかし、縁もあり歯学部準硬式野球部の顧問を引き受けていただいております。最初は顧問でもすれば定期的に運動ができるかなという目論見もあったのですが、ほとんど練習にも参加してあげることができず学生諸君には申し訳ない気持ちで、今年も7年目のシーズンが終わりました。

その中での楽しみは年に1度の6年生の引退試合です。そこは毎年楽しみに参加させてもらっていますが、年に1度の運動という状況では、イメージと実際の体の動きがどんどん解離していく自分を知るはめになり、毎年肩を落としています。



▲ 野球部のみんなと

そんな中、最近のバットはよく飛ぶような気がしていましたら、先日ある飲み会で、最近では飛距離はお金で買うものですよ、と間を感じるアドバイスを受けてました。学生時代の練習試合の時に先輩がノック用のバットを使って打席に入って、びっくりするような大飛球を打って、キャプテンから大激怒されていたのを思い出して、今年はひとついいバットでも買おうかとニヤリとしています。

しかし、この文章を書いている今、非常に美しい爽快な秋空が広がっています。何を考えているのか。三振しないことが目標となっていた今、意味がないと空が教えてくれました。しかし、打席に入ると変わらず夢を見るものです。

医歯連携担当 病院長補佐 岩本 勉

このコーナーでは、病院でとりくんでいる様々な事業を紹介します。

日本モンゴル教育病院の竣工・開院式について

徳島大学とモンゴル国の唯一の国立医科大学である「モンゴル国立医科大学(MNUMS)」は、2007年から学術交流協定を締結し、良好な関係を築いてきました。特に医学部では多くのモンゴル人留学生を受け入れてきており、帰国後は本学での留学経験を活かし、モンゴル国の各地の病院で活躍をしています。

2017年からは、MNUMSの新たな附属病院の設立を支援する「日本モンゴル教育病院運営管理及び医療サービスの提供の体制確立プロジェクト」(JICAによる委託事業)を、本学、愛媛大学、株式会社コーエイリサーチ&コンサルティングの3者で受託し、日本式医療サービスを提供する体制の構築について指導を行っています。



▲ チングスハーン騎馬像



▲ 河野外務大臣

本院での研修も今までに7回実施しており、各科の医師の方々のみならず、医療技術部、看護部、薬剤部、事務部の皆様には、非常にお忙しい中を大変お世話になりました。

その甲斐あって、今年6月、2年の準備期間を経て新たな附属病院が「日本モンゴル教育病院」としてようやく開院しました。

開院式では、モンゴル国のフレルスフ首相のスピーチに続き、河野外務大臣(当時)から、日本の支援により設立された「日本モンゴル教育病院」が、モンゴル国民の健康福祉の向上に寄与することを願う、との祝辞が述べられました。

現在日本モンゴル教育病院では、病棟稼働(入院患者の受入開始)と手術の開始に向けた準備が進められています。プロジェクト終了する2022年1月末までは、モンゴル国と日本で引き続き各種の研修を行うことになります。皆様にはどうぞ今後ともご指導、ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。



▲ 開院式

事務部 総務課総務係 鈴木 あかね

NEWS・イベント大募集!

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係(bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp)までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案もお待ちしております。



小児歯科

森浩喜 助教



このたび徳島大学病院小児歯科に助教として採用していただきました森浩喜と申します。香川県で生まれ育ち、岐阜県にある朝日大学で学生生活を過ごしておりました。歯科医師免許取得後は徳島大学病院での研修後、大学院へ進学し博士課程を修了し、大学病院で勤務しております。

今年度4月に徳島大学病院口唇口蓋裂センターが設立されました。口唇口蓋裂は500人に1人の割合で発現し、出生前あるいは出生直後に診断されます。症例にもよりますが治療は新生児から成人になるまでの長期間に及び、高い専門性を有し、他科との連携が必要となってきます。徳島県の出生数はそろそろ5,000人を割り込みますが、それでも毎年一定数の患児の治療が開始されていきます。主に新生児を担当させていただいておりますが、私自身も父親でありますので、ご家族に寄り添った診療に取り組んでいきたいと思っております。精一杯頑張りますので御指導御鞭撻のほどよろしくお願いします。

手術部

佐々木秀人 医員



今年度より徳島大学麻酔科で勤務しています佐々木と申します。主な業務として手術室での麻酔を担当させていただいております。出身は徳島県で、徳島大学医学部を卒業し、徳島県鳴門病院での初期研修を2年間、麻酔下での1年間の勤務を経て、徳島大学病院に異動してまいりました。まだまだ至らぬ点がありますが、どうぞよろしくお願い致します。

特にこれといった特筆すべき趣味・特技等はなく、休日は気の向くままに生活しております。最近では昔流行ったゲームなどを、当時時間を忘れて没頭したのを思い出しながら、ゆっくりゆったりと進めていくのが、私の休日の使い方の1つです。

これから先色々ご迷惑をお掛けすることございますが、一つ一つ丁寧に業務を行っていきたく思っております。短い文章で恐縮ですが、自己紹介とさせていただきます。これからどうぞよろしくお願いします。

脳神経外科

山口真司 医員



脳神経外科の山口真司と申します。徳島出身で、徳島大学を卒業後、徳島大学脳神経外科に入局しました。この度2019年4月より徳島大学病院に勤務しております。

脳梗塞や脳出血、くも膜下出血といった急性期脳血管障害を専門にしております。私が医師になった11年前は、脳梗塞の急性期治療は血栓溶解療法(tPA点滴投与)が主体でありました。近年、脳血管内治療の進歩や新しい臨床試験による適応拡大により、脳梗塞によって主幹動脈が閉塞している場合、急性期脳血管内治療(血栓回収療法)を行い、閉塞を解除(再開通)することによって症状や転帰が改善する可能性があり、積極的に急性期治療を行っております。

趣味はパソコン関係です。インターネットや電子機器の発達で便利になる一方、それに使われてなるものかと、スマートスピーカーを購入して、娘2人と一緒に「OK, google」を呼びかけております。

形成外科

水口誠人 医員



徳島赤十字病院での初期研修を経て、本年度より当院形成外科、美容外科に入局しました水口誠人と申します。学生時代の臨床実習で唇裂口蓋裂の手術を見学し、見事に正常な形態が再建されていることに驚き、形成外科の世界に飛び込もうと決意しました。一般的には皮膚外科といったイメージを抱く方も多いと思いますが、頭頸部癌、乳癌、皮膚悪性腫瘍に対する再建、唇顎口蓋裂や多合趾症などの先天奇形、虚血肢への血行再建などなど、体表の部位や臓器にとらわれず、多種多様な疾患を扱えることが大きな魅力だと感じています。また皮膚縫合という基本的な技ひとつをとってみても、非常に奥深く、自分が縫った傷と先輩が縫った傷を見比べては反省と勉強の毎日です。まだまだ未熟さが目立ちますが、初心と謙虚さを忘れずに研鑽を積み、少しでも患者さんに信頼される医師になれるよう精一杯頑張ります。

腎臓内科

清水郁子 医員



腎臓内科で主に入院中の患者さんの治療を担当しています。外来で腎機能の悪化を指摘されて透析導入される方、自宅での生活が不規則で体液管理が必要となった方、ステロイドを始めとした薬物療法目的に入院される方などが中心です。腎臓以外の疾患を合併している患者さんもよく来られるので、他科の先生に共診していただく機会も多いです。担当の患者さんの腎生検や、その検体からの病理診断も行っています。また、週に一度透析室の当番もあり、他科の患者さんを含めた透析中の方の管理をしています。現在の目標は腎生検組織診断にもっと熟達することです。

仕事のない休日は映画館で映画を観たり買い物に行ったりしています。通勤が自家用車で運動不足だと感じる人が多いので最近筋トレを始めたところです。

看護部西病棟7階

加藤奈那 看護師



今年度から新採用され西病棟7階(消化器内科・内分泌代謝内科)に配属されました加藤奈那と申します。

入職した頃は、わからないことが多くあり、とても不安で自信も持てませんでした。しかし、患者さんは私を一人の看護師として認めて話を真剣に聞いてくださいます。そのような患者さんの姿をみると責任感を感じ、少しでも早く信頼される看護師になりたいと考えるようになりました。どんな時にでも焦らず患者さんのことを一番考えた行動がとれる看護師、また患者さんに信頼される看護師になれるよう頑張っています。

時には疲れてしまうこともあります。休日も充実した日々を過ごせるよう、友人とカフェに行っておしゃべりしたり、趣味の読書をしたりして気持ちをリフレッシュしています。

より幅広い知識、技術を持ち、目標とする看護師になれるよう、日々精進していきますので今後ともよろしくお願いいたします。